

今年いちばんのハプニング

奈義町立奈義小学校

三年生 和田 渚 紗

さて、クリスマスも終わり、ひと息ついている今日この頃、和田家では年賀状を作り始めます。わたしとお兄ちゃんは、お父さんが作ってくれる年賀状に、ひと言ふた言書くのがいつものやり方です。しかし、今年は何かちがうふん囲気です。

二階から、

「なんでなっ。」

と、お父さんが怒っている声が聞こえてきました。ただならぬ空気を二階から感じ取ったお母さんは、

「様子ようすを見てくるわ。」

と、二階へ上がっていきました。下に降りてきたお母さんは、

「お父さん、パソコンとけんかしよった。」

と教えてくれました。この日は、夜おそくまでカチカチとパソコンのキーボードをたたく音と、

「もう。」

というお父さんの声が聞こえていたそうです。

年賀状作り二日目です。今日もお父さんは仕事から帰った後、パソコンと向き合って年賀状作りです。

「おうい。うちは何枚まいなん。」

「とりあえず五十枚くらいで。」

というお父さんとお母さんの会話に、「上手うまくいってるのかな」と、わたしは安心しました。しかし、安心したのもつかの間、

「もう今年はなしじゃ。」

と怒って、お父さんが一階へ降りてきました。

「パソコンが動かん。一大事だ。」

というのも、お父さんはとりのおじいちゃんの家用と、わたしの家用の、二けん分を作らないといけないのです。「和田家ピンチです。」いいえ。「お父さんがピンチです。」

年賀状作り三日目にとつ入です。

お母さんが、暗い表情ひようじょうで仕事から帰って来ました。

「どうしたん。」

と、わたしが聞くと、

「高かった、高かった。」

と言うばかり。どうやら今年は手書きをしようと、スタンプやシールを買って帰ったはいいものの、思いの外高ほかかったようです。

一階では、お母さんが手作り、二階では、お父さんがパソコンをカチカチしています。「どうか上手くいきますように。」と、わたしはねがいました。

パソコンとの戦いも四日目に入り、「今年は手書き」という流れになりました。わたしもお兄ちゃんもお手伝いをし、あて名を書いたりしました。はがきの書き方は学校で習ったばかりなので、

「まかせて。」

と言ったはいいものの、わたされたのは筆ペン。手がぶるぶるして、字はへによへによです。

「いつもはいんさつだったけど、手書きもいいねえ。」

と、お母さんは言いました。

「お年玉、当たるといいね。」

と、お兄ちゃんが言いました。

「自分が送った年賀状が、当たるとうれしいよね。」

と、みんなで話をしながら書くと、あつという間に出来上がりました。

「お父さんは。」

と、わたしが聞くと、パソコンとのけんかにつかれたのか、ぬげがらのようになっていました。

「さあ、あとはおじいちゃんの家用だ。」

三人のチームワークで、次々とスタンプをおしていき、三人のまわりは、インクをわかすために広げた年賀状でいっぱいになりました。なかなか見ることができない光けいなので、

「一枚とろうか。」

と、お母さんが言い、写真をとりました。

和田家の今年いちばんのハプニングは、四日間にもわたり、パソコンにふりまわされたこと。しかし、けっかは家族みんなで楽しくすごすことができて、よかったです。